

011

自然環境が持つ機能を活用したグリーンインフラによる豪雨被害の低減

取組主体

東急建設株式会社

従業員数

2,523人

想定災害

豪雨等

実施地域

神奈川県

- 自社研究所内のグリーンインフラ実証実験施設において、集中豪雨時の雨水の貯留・流出抑制、浸透促進効果と生物多様性の保全効果を確認。

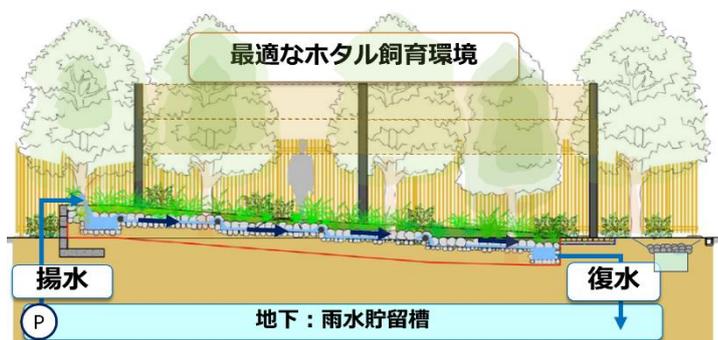
1 取組の特徴（はじめたきっかけ、狙い、効果、工夫した点、苦労した点）

グリーンインフラの活用で住みよい地域づくりに貢献

- 東急建設株式会社は、環境方針の重点項目に生物多様性を掲げ、環境に配慮した建設活動を推進している。また、同社は従来から、公園等の地下に雨水を貯留し、植物の生育に利用する工法や技術の開発を進めている。
- 近年、都市部における集中豪雨が頻発する中で、同社は平成30年に、自然環境が持つ機能を活用したグリーンインフラの実証実験施設を研究所の敷地内に設置し、雨水を「貯める」、「使う」、「自然に還す」、生き物が「棲む」、「育つ」をキーワードに、①都市型集中豪雨対策（貯留・流出抑制、浸透促進）、②環境保全の技術（雨水の有効利用、水循環の促進、動植物の生息・生育環境の創出）を検証している。
- 同施設で約2年の環境計測を行った結果、集中豪雨時の雨水の貯留・流出抑制、浸透促進の効果を確認した。また、「水辺の生息空間（ビオトープ）」の機能を併せ持ち、ヒートアイランド現象を抑制するほか、多様な昆虫や鳥類の生息を可能にする生物多様性の保全効果も確認した。



実証実験施設の外観



施設の断面イメージ図

2 取組の平時における利活用の状況や効果

- 平時に貯留した雨水は、太陽光発電を利用した動力によって同施設内で循環利用されている。

3 現状の課題・今後の展開等

- インフラ施設は維持管理が重要である。同社は、同施設を生物多様性の教育活動や地域コミュニティ活動等の場として活用することで、継続的な維持管理につなげていきたいと考えている。

担当者の声

- 本施設で得られたグリーンインフラ技術を用いて、都市部における防災・減災の提案や環境保全活動等を進めていきたいです。

問合せ先

東急建設株式会社 法人番号：9011001040166

TEL：03-5466-5020 FAX：03-5466-5069 E-Mail：webmaster@tokyu-cnst.co.jp